

教団新報



一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたのではないか」と語り合った。そして、時を移さず出発して、エルサレムに戻ってみると、十一人とその仲間が集まって、本当に主は復活して、シモンに現れたと言っていた。二人も、道で起こったことや、パンを裂いてくださったときにイエスだと分かった次第を話した。

(ルカ24・30～35節)

それから二十数年を経て、あの時のことをぶり返っています。私は今、朝起きて窓のカーテンを開けて、空を見ながら數十人の人たちのためにとりなしの祈りをしていました。特に困難な状況にあ

心を燃やし続ける

る人やこれまで親交のあった大切な人たちの名前を見ながら、「今日も一日、あなたが共にいてください」と祈るひとと

そのことをK牧師から

教えてられて、これまで続けてくることができたの

は、あの時私の心を燃や

しててくれた炎を、今も消

すことなく燃やし続けて

いるということになるだ

うと思っています。

に伝えようとしたのだ

と想像しています。

牧師になって十年経つて、偶然手にしたある冊子で、青年時代に目

「心が燃える」という経験は私たちにも起ることです。私は今「あの時」のことを思い起こしています。

牧師になって十年経つて、偶然手にしたある冊子で、青年時代に目

牧師として新しい出発

をかけていたK牧師の説教を読んで衝撃を感じ、直接説教を聴きたいと思って大阪の教会まで行きました。K先生は私たち夫婦の突然の訪問を殊のほか喜ばれ、礼拝後昼食をごちそうしてくれました。そこには何十人のもの

で、K先生は胸のポケットから手帳を取り出して、K先生は4人で食事をしていた席を開いて見せてくれました。そこには何十人のもの

だ！」と氣付かされ、そ

は、三人一緒にエマオに

着いて、食事を共にして

生きておられる」といく

言葉で語られても、聞

いている人には何の出来

事も起こらないという現

葉は空しく響いただけでした。「イエスは復活し

た」と天使たちに告げられた

との驚くべき知らせを聞

いたはずなのに、その言

葉は空しく響いただけでした。

「イエスは復活し

た」と天使たちに告げられた

各教区から担当者が集い課題を共有



清水国際高等学校を訪問



ウェブ会議の可能性を模索

3月9日、教団伝道推進基本方針展開検討小委員会と教団伝道推進室の合同委員会が、教団会議室で行われた。第2回となる合同委員会では、主に「日本伝道の推進を祈る日」の展開状況と、「全国伝道推進献金」の現況および取り扱いについて、報告と協議を行った。日本伝道の推進を祈る日の展開については、現状について、報告と協議を行った。

3月9日現在で、献金件数が140件、献金総額が156万3864円であることが報告された。その内訳について、教会・道所への指定献金について

「全国伝道推進献金」の取り扱いについて協議

3月9日、教団伝道推進基本方針展開検討小委員会と教団伝道推進室の合同委員会が、教団会議室で行われた。第2回となる合同委員会では、主に「日本伝道の推進を祈る日」の展開状況と、「全国伝道推進献金」の現況および取り扱いについて、報告と協議を行った。

在「信徒の友」に2教区（東京教区は支区）ずつ、教会の紹介を行つて、その掲載状況が報告され、今後の掲載予定についての調整および巻頭言担当者をそれぞれ決定した。

3月9日現在で、献金件数が140件、献金総額が156万3864円であることが報告された。その内訳について、教会・道所への指定献金について

2月17・18日、「教区教育担当者会」が清水教会で開催された。各教区から参加者を得た。開会礼拝の後、大澤秀夫牧師（茅ヶ崎平和教会）による講演がなされた。大澤牧師は長年「教師の友」の誌面づくりに関わってきた経験と、自身の牧師としての歩みから、子どもと共に歩む教會のあり方を丹念に解き明かした。

その後、グループディスカッションを通して、各地区の様子や課題などを共有する時間を持つ

主義校として清水の地にあり続けていか、高橋

教師の様々なチャレンジ

がひしひと伝わってく

るひとときであった。わ

ずかな時間ではあった

が、活発な質疑応答がな

された。（望月麻生報）

2月18日から19日にかけて清水教会で開催され

た。「教区教育担当者会」に引き続いでの委員会で

あった。

諸報告で、20年3月13

日に開催予定であった第

59回「キリスト教教育主

事」認定試験は志願者が

与えられなかつたため実

中から送付する教会を決

定した。毎年応募をいく

つかいただく喜びの一

方、要望が多様化してい

て対応しきれないケース

も見受けられるようにな

った。「教会学校の活

動」に、この応援セレ

トをもつていかに応えてい

くか、回を重ねる中で議

論の必要も生じている。

また、20年度は「台

湾ユースミッション

2020」が企画されて

きゅうぶう！」の様子が報

された。（望月麻生報）

2月20・21日に別府教会を会場に開催した。大塚

啓子委員による開会礼拝

の後、庄司宜充委員の案

内により2017年7月

に発生した九州北部豪雨の現状観察を行つた。

まず、別府から被害の

影響が残つてゐる現実を

目の当たりにした。

さらに大分県日田市鈴

連町小野地区を訪問。小

野地区は大規模な土砂崩

れにより土砂ダムがで

き、道路が塞がれ孤立状

態になつたという。梨栽

培で有名な地域だが、苗

木煙が壊滅的な被害を受

けた。日田市には教団の

教会はないが、公民館の

整備に携わつた際に日田

市より推奨された8施

き、九州教区は日田梨部

会と共同で梨苗木プロ

ジェクトを立ち上げた。

現在も続く長い地域

に根ざした復興支援の実

践を学ぶことができた。

二日目の別府教会での

委員会では、各種報告を

受け協議を行つた。クリ

スマス献金をもとに実施

している社会福祉施設へ

の援助については、各教

区より推薦された8施

設について提出された

申請書類を慎重に審査

み、7件に対して各8万

5000円、1件に対し

て2万5000円を送る

ことを可決した。

6月に開催する全国社

会委員長会議（災害へ

の備えと教区間連携につ

いて）について、案内

とプログラムの確認・担

当者を決定。教区報告と

併せて行うアンケートを

共有しプログラム内容を

深めるものとした。

教団から社会委員会に

対して「日本基督教団の

災害対応状況および今後

の課題について、「力ナ

ダ合同教会の資産償却に

際してのアイディア」の

意見が求められ、委員間

での意見交換をもえて

答申することとした。

（高橋真人報）

（望月麻生報）

（高橋真人報）

（望月麻生報）

（高橋真人報）

（高橋真人報）</p

「新型コロナウイルス感染症に伴う注意喚起について」(第二信)

日本基督教団 各教区 各教会・伝道所
関連施設(付属幼稚園 保育園 センターなど)の皆さんへ

2020年3月27日

日本基督教団 総会議長 石橋秀雄
総幹事 秋山 徹

新型コロナウイルスによる感染の拡大は収まる様子がありません。

教会によっては、礼拝を中止しているところがあるとも聞いています。教会・伝道所、地区(支区・分区)では、「定期総会」の時期にあたり、延期するなどの検討を始めているとも聞いています。

そこで改めて、教団としての方針をお伝えしたいと思います。

- (1)教会活動の基本は、毎主日の礼拝です。しかし専門家によれば、礼拝は「感染リスクの高い環境」であることを認識する必要があることに変わりはありません。そこで、礼拝をささげる場合は、礼拝時間の短縮や換気の徹底など、可能な限り感染のリスクを減らす対策を必ず取るようにしてください。
- (2)教会が礼拝をささげない(中止する)ということはありません。礼拝は集会でもイベントでもないからです。たとえ礼拝堂に集うことがなくとも、「教会は礼拝をささげる」ということを大切にしてください。
- (3)現実的には、各教会・伝道所の判断が優先されますが、いまでもなく、「祈り」をもって慎重にご判断ください。
- (4)感染リスクが高くなるのは「換気の悪い密室空間」「多くの人が密集した場所」「近距離(手を伸ばしたら届く距離)での会話や発声」です。これらの条件が重なる場合は、礼拝堂での礼拝を中止することも検討してください。
- (5)ご高齢の方、重症化しやすいリスク(基礎疾患)を抱えている方へは、十分な配慮をしてください。礼拝出席の自粛を申し出られた場合は、祈りと配慮とを忘れないでいましょう。場合によっては、自宅礼拝をお勧めし、教会の礼拝に自宅で心を合わせていただくということも必要であると思います。

(6)感染に対する危機意識をもちつつも、いたずらに感染を恐れて、互いに、自分の意見を主張し合うようなことは慎みましょう。とくに、差別的な言動を生じてはなりません。

(7)現在、教団では、各種委員会以外の、全国の広い地域から出席者が集う集会は、原則中止していますが、感染状況や人数などの状況によっては委員会レベルも中止することを検討します。*Skype会議なども推奨します。

(8)教会・伝道所の総会や教区(支区・地区・分区)の総会などの開催については、慎重に判断してください。開催しない場合の対応に迷われたときは、教団事務局にご相談ください。

日本基督教団は「日本基督教団信仰告白」を告白し、「教憲教規」を守ること以外は、各人と各個教会・伝道所による「自由な証し」を大切にしてきました。その信仰を、このたびの感染対策にも生かしたいと思います。一人ひとりが、諸教会・伝道所が、諸教区(支区・地区・分区)が、神に向かって真摯に祈り、最も良い答えを見出させていただき、この「試練の時」をご一緒に乗り越えたいと願います。

《新型コロナウイルス感染に対する取り組み例》

A教会

- *主日礼拝は、どのような形にしろ、休止しない。
- *礼拝プログラムの短縮(讃美歌を歌う回数などを少なくする)
- *聖餐式を取りやめる。
- *讃美歌は起立しないで、小さな声で賛美する。
- *間隔を空けて着席する。
- *礼拝出席者でコロナウイルスの感染が判明したら、その情報を公開する。

B教会

- *み言葉に仕える教会としての使命はこの時に

こそあるため、実施形態はともかく礼拝の「中止」の判断はしない。

*会堂の入り口にアルコール消毒設置や会堂内の除菌&消毒を行う。

*欠席者(欠席希望者)への説教原稿の送付(送信)

*SNSの利用による教会の情報の発信。

*高齢者・基礎疾患を持つ方々、感染リスクの疑いがある方々への声掛けの実施

C教会

*発熱咳のときは欠席して自宅で祈る。

*教会に着いたら、石けんで手を洗う。

*できたらマスクを着用する。

*集会での飲食は控える。

*集会にはマイボトルを持参し、座席に余裕を持って座る。

*礼拝出席は各自の判断に任せるが、高齢者、公共交通機関利用者には、慎重な判断を呼び掛ける。

D教会

*報道に惑わされず冷静さと神様の導きを信頼し福音の示すところに立ち、ひづみを負わされる弱者を覚え、キリスト者の祈りと行動を考える。

*礼拝中の讃美歌は奏楽に耳を傾けて黙想し、祈祷と詩編交説は、司式者のみにする。

*子どもの教会(教会学校)はお休み。各委員会もお休み。

*高齢者、子どものいる家庭、健康に不安のある方、公共交通機関を利用する方、感染症リスクのある方には、金曜日に週報を配り、土曜日に、再度、「礼拝出席をお控えいただく」と伝え、主日礼拝説教の原稿を届けて、自宅での礼拝を勧める。

◇この他にも、換気に注意しながらささげる、礼拝のネット中継、ユーチューブなどによる動画配信(*この場合は讃美歌の著作権に注意する)など、様々な工夫している教会があります。HPなどを検索してご覧ください。

◇現在、礼拝施設(礼拝堂)での礼拝を休止している教会もあります。

*なお、教区総会の持ち方などについては、教団ホームページをご覧ください。

教会付属の幼稚園で幼い時から、神さまの御手の中に迎えられた。その信仰は、衆議院議員であり弁護士として超多忙な父、日曜日は必ず礼拝に出席するという後ろ姿を見て成長した。

戦後間もない頃、青年たちとの熱い交わりの中で洗礼を受洗73年目だ。

学校を卒業後、歯科医になる志が与えられ、地元新発田の歯科医院に勤務した。そこは朝から市が立つほど賑わう場所で、ひっきりなしに多くの患者が訪れ、現役を退いた今でも、「先生は優しかった」と、衣料品店の店主や、食品店の家族などが、郁子さ

八 ひととき

松澤 郁子さん

魂に沁み込んだ 信仰の言葉



新発田教会員。教会の子どもたちと若者たちのために祈り続ける

教会の集まりは、狭い空間に人と人が近い距離で、互いに挨拶を交わし、賛美を高らかに歌う。警戒体制を取らなければならぬのは当然。このような状況に即して教会は新たなメソッドを取るところも。止のところも。すべての社会が対応に追われ京オリンピックも1年延期に。諸国もパンデミックの様相を呈け世の中が広がり、今やアジアだけでなくアメリカもヨーロッパで、非常事態になってしまった。東

ミックの現実に直面する時、キリスト者の存在が疫病に例えられたことがあったことを思い出す。使徒言行録にはパウロのことを「この男は疫病のような人

となる。このような疫病によるパンデミックの現実に直面する時、キリスト者の存在が疫病に例えられたことがあったことを思い出す。

猛烈な伝播力をもつて、それが今でも口をついて出で来る。それは魂に沁み込んだ信仰の言葉となって平安と希望を与えてくれる。たまに、夫と毎日、「日々の糧」を読み、祈りを合わせた。詩篇23篇「エホバはわが牧者なり、われ乏しきことあらじ」。どんな時にも、牧者であるイエスさまに守られ導かれて来

た。夫と共に新発田教会に転入し、新発田教会の礼拝生活が始まつた。忙しい日常の中に夫と毎日、「日々の糧」を読み、祈りを合わせた。詩篇23篇「エホバはわが牧者なり、われ乏しきことあらじ」。どんな時にも、牧者であるイエスさまに守られ導かれて来た。夫は耳鼻科医、郁子さんはその夫を導いたお姑の信頼を心から尊敬している。教会を第一に仕える姿を見て成長した。

教会付属の幼稚園で幼い時から、神さまの御手の中に迎えられた。その信仰は、衆議院議員であり弁護士として超多忙な父、日曜日は必ず礼拝に出席するという後ろ姿を見て成長した。

戦後間もない頃、青年たちとの熱い交わりの中で洗礼を受洗73年目だ。

学校を卒業後、歯科医になる志が与えられ、地元新発田の歯科医院に勤務した。そこは朝から市が立つほど賑わう場所で、ひっきりなしに多くの患者が訪れ、現役を退いた今でも、「先生は優しかった」と、衣料品店の店主や、食品店の家族などが、郁子さ

れた。夫と共に新発田教会に転入し、新発田教会の礼拝生活が始まつた。忙しい日常の中に夫と毎日、「日々の糧」を読み、祈りを合わせた。詩篇23篇「エホバはわが牧者なり、われ乏しきことあらじ」。どんな時にも、牧者であるイエスさまに守られ導かれて来

た。夫は耳鼻科医、郁子さんはその夫を導いたお姑の信頼を心から尊敬している。教会を第一に仕える姿を見て成長した。

戦後間もない頃、青年たちとの熱い交わりの中で洗礼を受洗73年目だ。

学校を卒業後、歯科医になる志が与えられ、地元新発田の歯科医院に勤務した。そこは朝から市が立つほど賑わう場所で、ひっきりなしに多くの患者が訪れ、現役を退いた今でも、「先生は優しかった」と、衣料品店の店主や、食品店の家族などが、郁子さ

れた。夫と共に新発田教会に転入し、新発田教会の礼拝生活が始まつた。忙しい日常の中に夫と毎日、「日々の糧」を読み、祈りを合わせた。詩篇23篇「エホバはわが牧者なり、われ乏しきことあらじ」。どんな時にも、牧者であるイエスさまに守られ導かれて来

た。夫は耳鼻科医、郁子さんはその夫を導いたお姑の信頼を心から尊敬している。教会を第一に仕える姿